

「ソーシャルディスタンス」がつくるビジネスチャンス ～システム・自動化関連企業に商機到来！～

●各国で相次ぐ新型コロナの規制緩和

新型コロナの感染拡大が続くなか、一部の国では規制を緩和しつつ段階的な経済活動の再開を目指す動きが見られ始めている。背景には、国際競争力の維持や経済の停滞による失業率の増加などを防ぎたいとの考えがあるようだ。日本でも、5月14日に感染爆発の可能性が乏しい39県の緊急事態宣言が解除された。

もっとも、新型コロナの感染拡大が収束したとしても、生活が以前と同じ状態へ戻る可能性は低い。私たちに求められるのは「新型コロナが収束した後には世界はどう変わるのか」を考え、待ち受けるあらゆる変化へと柔軟に対応していくことだろう。

●「ソーシャルディスタンス」が様々な常識を変えよう

新型コロナの感染拡大で浸透した考え方の一つに、「ソーシャルディスタンス(社会的距離)」がある。物理的な距離を保ち、濃厚接触を避けようという試みだ。ソーシャルディスタンスの考えは、中長期的に社会や企業の在り方にも影響を及ぼそう。具体的には、省人化・ロボット化や無人レジ、キャッシュレス決済などへの需要が今後一段と高まろう。海外では新型コロナの感染拡大をきっかけに、人への感染防止策として施設内の清掃・消毒や配達などにロボットを活用する動きが活発化しているもよう。

日本において省人化・ロボット化やキャッシュレス決済などは、政府が施策や目標を打ち出しているものの、規制や利用者の抵抗感などから浸透するまでには至っていない。もっとも、新型コロナの感染拡大を受け、国内でも新たな取り組みとして無人レジの導入拡大や自動化に注力する企業が

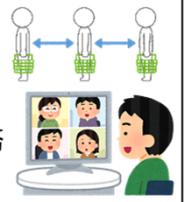
増加するなど、社会が変化を受け入れ始めたようにも感じる。

IoT(モノのインターネット)や5Gの普及を追い風に、ロボット市場は2025年には20年と比べ約2倍の2,000億ドルを超える見通し。ロボットはかつて日本の「お家芸」と言われていただけに、市場の拡大に弾みがつけば、関連銘柄にとっても追い風となる。また、新たな技術を導入する上ではシステム構築が必要となるため、ITコンサル等を手掛ける企業も同様に注目できそうだ。

＜コロナ後も「新しい生活様式」が定着しよう＞

政府が提唱した「新しい生活様式」の一例

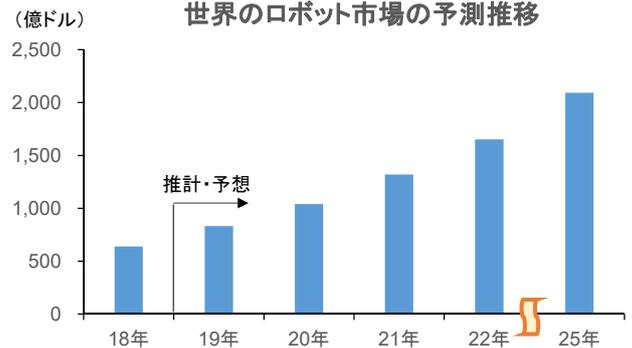
- ・人との間隔を2m(最低1m)空ける
- ・外出時や会話をするときはマスクを着用
- ・「3密(密集・密接・密閉)」の回避
- ・身体的距離の確保
- ・電子決済の利用
- ・レジ使用時は前後にスペース
- ・多人数での会食を避ける
- ・テレワークやローテーション勤務
- ・オンラインの活用



出所:厚生労働省、作成:岡三証券。

＜拡大が期待されるロボット市場＞

世界のロボット市場の予測推移



出所:各種媒体、19年は推定、20年以降は予想。作成:岡三証券。

《主な関連銘柄》

テーマ	関連銘柄
自動化	ナブテスコ(6268)、SMC(6273)、ハーモニック・ドライブ・システムズ(JQ6324)、ダイフク(6383)、THK(6481)、不二越(6474)、アズビル(6845)、キーエンス(6861)
ロボット	ALSOK(2331)、オムロン(6645)、三菱電(6503)、安川電(6506)、山洋電気(6516)、ダイヘン(6622)、パナソニック(6752)、ファナック(6954)、セコム(9735)
セルフレジ、キャッシュレス	GMOPG(3769)、ヴィンクス(3784)、サインポスト(3996)、サトーHD(6287)、金銭機(6418)、東芝テック(6588)、IDEC(6652)
ITシステム	システナ(2317)、TIS(3626)、IJJ(3774)、コムチュア(3844)、NRI(4307)、オービック(4684)、NEC(6701)、富士通(6702)、NTTデータ(9613)、SCSK(9719)

出所:会社資料、作成:岡三証券。 ※JQはジャスダック。

※ 業績予想:全て東洋経済。

GMOペイメントゲートウェイ、ナブテスコ、NECは国際会計基準(IFRS)、オムロンは米国会計基準。

※ 配当利回りはレンジの下限を参照。

※ 株価・業績は5月18日時点 作成:岡三証券

GMOペイメントゲートウェイ(3769)

★オンライン決済サービスが主力★

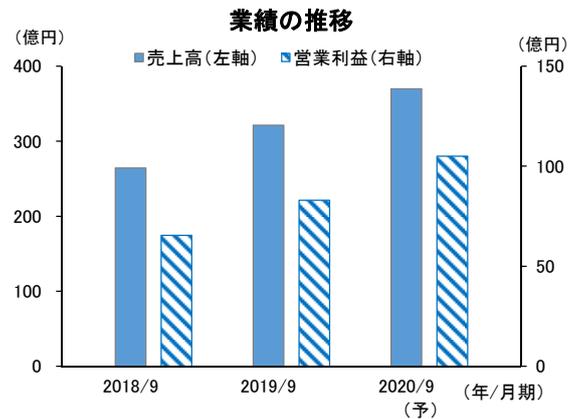
インターネット通販など「非対面販売」を行う事業者などに対して、オンライン決済代行サービスを提供する。

★巣ごもり消費の拡大が追い風に★

20/9期上期決算では、Eコマース市場の拡大を背景に、決済サービスが好調に推移した。新型コロナの感染拡大により日用品やデジタルコンテンツなどの決済が増加したことで、決済処理件数は前年同期比35.4%増となった。

5月18日 終値 11,410円 予想PER 126.8倍

予想配当利回り 0.37% 実績PBR 31.7倍



5月18日 終値 3,265円 予想PER 17.7倍

予想配当利回り 2.51% 実績PBR 2.2倍

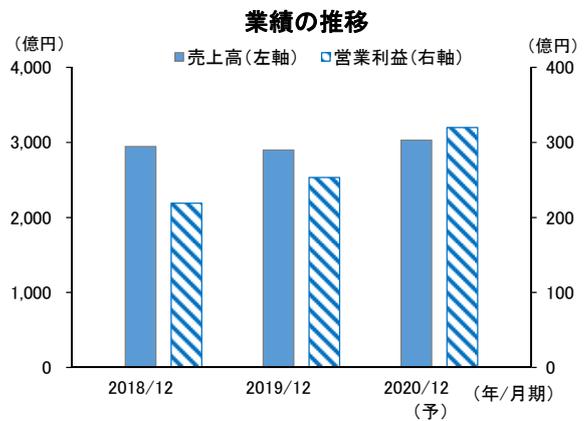
ナブテスコ(6268)

★精密減速機で世界最大手★

制御技術によりモノを動かす「モーションコントロール技術」を核に、輸送分野からロボット、建機など広域な領域で事業を展開。多くの製品で市場シェアNo.1を誇る。

★AIやIoTで「見える化」を促進★

近年はIoT機器による生産情報の「見える化」や、AIによる品質管理などスマート生産管理の推進を目指している。また、ビッグデータ解析などを活用した故障診断など「攻め」のアフターサービスの提供も目指す。



5月18日 終値 7,960円 予想PER 34.8倍

予想配当利回り 0.94% 実績PBR 4.3倍

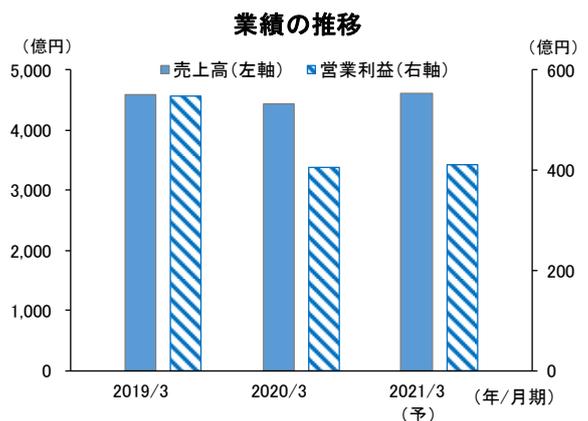
ダイフク(6383)

★物流システム「マテハン」で存在感★

搬送・仕分け・ピッキング等に用いられるマテリアルハンドリング(マテハン)システム・機器で世界トップクラスのシェアを誇る。

★高まる自動化ニーズを取り込む★

20/3期4Q決算では、Eコマース向けが好調に推移したほか、受注残が過去最高となった。新型コロナ感染拡大による業績への影響は軽微としており、21/3期は半導体需要の回復などを追い風に増収増益を計画している。



※ 業績予想: 全て東洋経済。

GMOペイメントゲートウェイ、ナブテスコ、NECは国際会計基準(IFRS)、オムロンは米国会計基準。

※ 配当利回りはレンジの下限を参照。

※ 株価・業績は5月18日時点 作成: 岡三証券

オムロン(6645)

★自動化に必要なセンサ技術に強み★

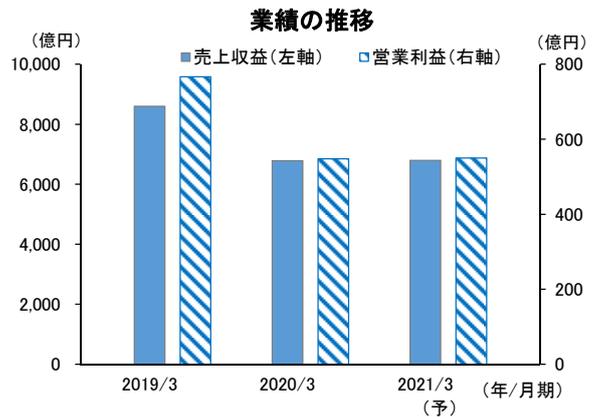
センサ、コントローラをはじめ20万点に及ぶ幅広い製品を通じ、「オートメーション(自動化)」技術を提供。血圧計などヘルスケア分野でもブランド力を発揮している。

★「新たな」省人化ニーズに応える★

コロナショックを経て、自動化分野で「3密」を回避するため、同社が提供する協調ロボットへの注目が高まっているもよう。また、医療分野でも患者遠隔管理サービスなどを推進しており、新たなビジネスへとつなげる計画。

5月18日 終値 6,730円 予想PER 31.6倍

予想配当利回り 1.25% 実績PBR 2.6倍



5月18日 終値 4,790円 予想PER 13.9倍

予想配当利回り 1.67% 実績PBR 1.4倍

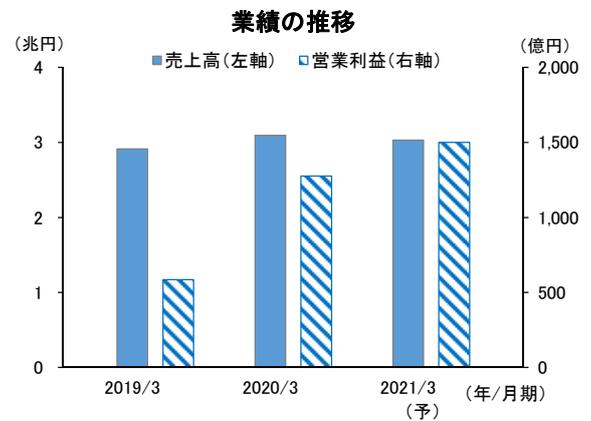
NEC(6701)

★構造改革が実を結ぶ★

官公庁・企業向けITシステム開発の大手で、通信インフラにも強みを持つ。20/3期は、収益構造の改革を進める一方、生体認証やAI(人工知能)等デジタル技術を生かした事業に注力した結果、全ての事業セグメントで増収を達成した。

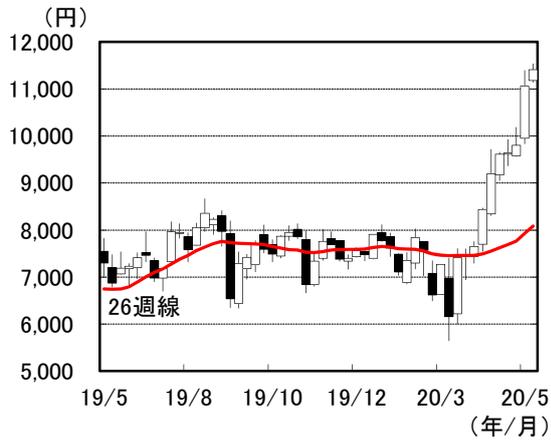
★生体認証技術などの新技術に注目★

21/3期も、強みを持つ生体認証や5G関連技術などを活用する計画。新規ビジネスによる業績拡大に改めて注目が集まろう。

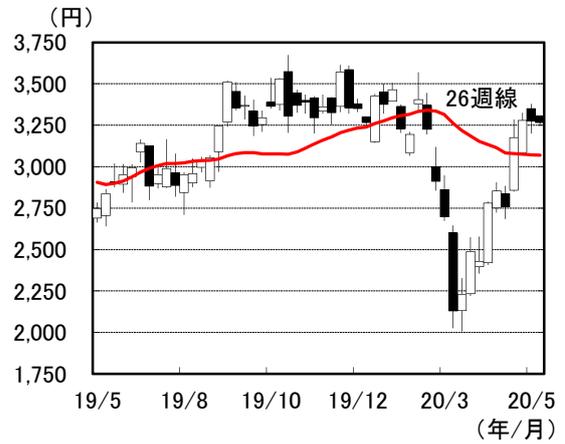


※ 週足、株価は5月18日現在、作成: 岡三証券

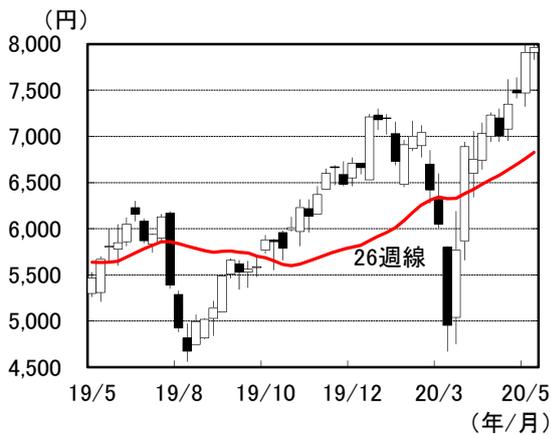
GMOペイメントゲートウェイ(3769)



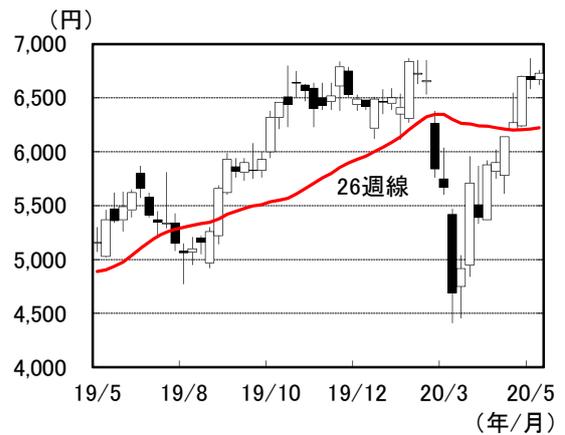
ナブテスコ(6268)



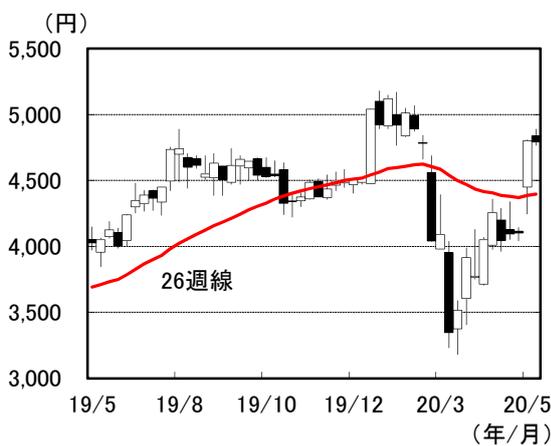
ダイフク(6383)



オムロン(6645)



NEC(6701)



重要な注意事項

免責事項

- ・本レポートは、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。また、本レポート中の記載内容、数値、図表等は、本レポート作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、本レポートに記載されたいかなる内容も、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本レポートは、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。企業が過去の業績を訂正する等により、過去に言及した数値等を修正することがありますが、岡三証券がその責を負うものではありません。
- ・岡三証券及びその関係会社、役職員が、本レポートに記載されている有価証券について、自己売買または委託売買取引を行う場合があります。岡三証券の大量保有報告書の提出状況については、岡三証券のホームページ(<http://www.okasan.co.jp>)をご参照ください。

地域別の開示事項

日本:

○金融商品は、個別の金融商品ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。金融商品取引のご契約にあたっては、あらかじめ当該契約の「契約締結前交付書面」(もしくは目論見書及びその補完書面)または「上場有価証券等書面」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

<有価証券や金銭のお預りについて>

株式、優先出資証券等を当社の口座へお預けになる場合は、1年間に3,300円(税込み)の口座管理料をいただきます。加えて外国証券をお預けの場合には、1年間に3,300円(税込み)の口座管理料をいただきます。ただし、当社が定める条件を満たした場合は当該口座管理料を無料といたします。

なお、上記以外の有価証券や金銭のお預りについては料金をいたしません。さらに、証券保管振替機構を通じて他社へ株式等を口座振替する場合には、口座振替する数量に応じて、1銘柄あたり6,600円(税込み)を上限として口座振替手数料をいただきます。

お取引にあたっては「金銭・有価証券の預託、記帳及び振替に関する契約のご説明」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

<株式>

- ・株式の売買取引には、約定代金(単価×数量)に対し、最大1.265%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料をいただきます。ただし、株式累積投資は一律1.265%(税込み)の売買手数料となります。国内株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・外国株式の海外委託取引には、約定代金に対し、最大1.375%(税込み)の売買手数料をいただきます。外国株式の国内店頭(仕切り)取引では、お客様の購入および売却の単価を当社が提示します。この場合、約定代金に対し、別途の手数料および諸費用はかかりません。
- ※外国証券の外国取引にあたっては、外国金融商品市場等における売買手数料および公租公課その他の賦課金が発生します(外国取引に係る現地諸費用の額は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、その合計金額等をあらかじめ記載することはできません)。外国株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・株式は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による株価の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・株式は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・また、外国株式については、為替相場の変動によって、売却後に円換算した場合の額が下落することによって損失が生じるおそれがあります。

<債券>

- ・債券を募集・売出し等により、または当社との相対取引により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・債券は、金利水準、株式相場、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による債券価格の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・債券は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、債券価格が変動することによって損失が発生するおそれがあり、また、元本や利子の支払いの停滞もしくは支払い不能の発生または特約による元本の削減等のおそれがあります。
- ・金融機関が発行する債券は、信用状況の悪化により本拠所在地国の破綻処理制度が適用され、債権順位に従って元本や利子の削減や株式への転換等が行われる可能性があります。ただし、適用される制度は発行体の本拠所在地国により異なり、また今後変更される可能性があります。

<個人向け国債>

- ・個人向け国債を募集により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。個人向け国債を中途換金する際は、次の計算によって算出される中途換金調整額が、売却される額面金額に経過利子を加えた金額より差し引かれます(直前2回分の各利子(税引前)相当額×0.79685)。
- ・個人向け国債は、安全性の高い金融商品ではありますが、発行体である日本国政府の信用状況の悪化等により、元本や利子の支払いが滞ったり、支払い不能が生じるおそれがあります。

<転換社債型新株予約権付社債(転換社債)>

国内市場上場転換社債の売買取引には、約定代金に対し、最大1.10%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料をいただきます。転換社債を募集等によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。転換社債は転換もしくは新株予約権の行使対象株式の価格下落や金利変動等による転換社債価格の下落により損失が生じるおそれがあります。また、外貨建て転換社債は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

<投資信託>

- ・投資信託のお申込みにあたっては、銘柄ごとに設定された費用をご負担いただきます。
お申込時に直接ご負担いただく費用:お申込手数料(お申込金額に対して最大3.85%(税込み))
保有期間中に間接的にご負担いただく費用:信託報酬(信託財産の純資産総額に対して最大年率2.254%(税込み))
換金時に直接ご負担いただく費用:信託財産留保金(換金時に適用される基準価額に対して最大0.5%)
その他の費用:監査報酬、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用等が必要となり、商品ごとに費用は異なります。お客様にご負担いただく費用の総額は、投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、記載することができません(外国投資信託の場合も同様です)。
- ・投資信託は、国内外の株式や債券等の金融商品に投資する商品ですので、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が下落することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・投資信託は、組入れた有価証券の発行者(或いは、受益証券に対する保証が付いている場合はその保証会社)の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が変動することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・上記記載の手数料等の費用の最大値は、今後変更される場合があります。

<信用取引>

信用取引には、約定代金に対し、最大1.265%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料、管理費および権利処理手数料をいただきます。また、買付けの場合、買付代金に対する金利を、売付けの場合、売付株券等に対する貸株料および品貸料をいただきます。委託証拠金は、売買代金の30%以上で、かつ300万円以上の額が必要です。信用取引では、委託証拠金の約3.3倍までのお取引を行うことができるため、株価の変動により委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

- 自然災害等不測の事態により金融商品取引市場が取引を行えない場合は売買執行が行えないことがあります。
- 2037年12月までの間、復興特別所得税として、源泉徴収に係る所得税額に対して2.1%の付加税が課税されます。

岡三証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

香港における本レポートの配布:

本レポートは、香港証券先物委員会(SFC)の監督下にある岡三国際(亜洲)有限公司によって、SFCに規定される適格機関投資家(PI)に配信されたものです。本レポートに関するお問い合わせは岡三国際(亜洲)有限公司にお願いします。

米国内における本レポートの配布:

本レポートは岡三証券が作成したものであり、1934年米国証券取引所法に基づく規則15a-6に規定される米国主要機関投資家のみには配信されたものです。岡三証券は、米国内における登録業者ではないため、米国居住者に対しローカー業務を行いません。本レポートで言及されている銘柄の売買注文は、アーバック・グレイソン社を通して執行いたします。

なお、本レポートは、受領者及びその従業員が使用することを目的として配信しております。

さらに、本レポートのアナリストは米国で活動をしていないため、米国のリサーチ・アナリストとして登録されておらず、資格も有していません。また、当該アナリストは、アーバック・グレイソン社または他の業者の関係者ではありません。したがって、当該アナリストは、米国金融規制機構(FINRA)規則の適用の対象ではありません。

その他の地域における本レポートの配布:

本レポートは参照情報の提供のみを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。

本レポートの受領者は、自身の投資リスクを考慮し、各国の法令、規則及びルール等の適用を受ける可能性があることに注意をする必要があります。

地域によっては、本レポートの配布は法律もしくは規則によって禁じられております。本レポートは、配布や発行、使用等を行うことが法律に反したり、岡三証券に何らかの登録やライセンスの取得が要求される国や地域における国民や居住者に対する配布、使用等を目的としたものではありません。

※本レポートは、岡三証券が発行するものです。本レポートの著作権は岡三証券に帰属し、その目的いかんを問わず無断で本レポートを複写、複製、配布することを禁じます。

(2020年1月改訂)